

KAS

# 風の谷

びゅう  
VIEW

社会福祉法人 風の谷

相模原市田名7236-3

発行責任者 政野 光廣

042-760-1033

<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>

e-mail: [ykoubou@pastel.ocn.ne.jp](mailto:ykoubou@pastel.ocn.ne.jp)



自閉症の人にとって  
「余った時間」って...?

余暇活動って  
「余った時間」  
にする活動のこと?

余暇活動って、  
「暇な時間」に  
する活動の  
こと?



自閉症の人にとっての  
「趣味」って何だろう?

余暇活動って、  
「趣味」のこと?

## 余暇活動 特集

自閉症の人にとって、  
「暇な時間」って  
どんな時間なの?



余暇活動って  
「仕事をしていない時」に  
する活動のこと?

自閉症の人にとって  
「仕事をしていない時」って、  
どんな時?



【2009年 春号】

巻頭文

P 2

研修報告 自閉症支援センター

P 3

特集：余暇活動

P 4 ~ P 7

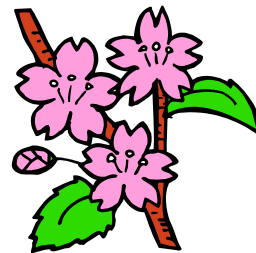
後援会のページ

P 8

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 柳場秀雄 〒228 0806 相模原市栄町 6 14

毎月 15 日発行

購読料 1 部 50 円



## 新年度にむけて

社会福祉法人風の谷は昨年、設立10周年を恙なく迎えることができました。ささやかではありますが地域交流バザーの場にて記念式典を開催できましたことは、偏に皆さま方の温かいご支援、ご協力によるものと心より御礼申し上げます。

さて、サブプライムローンに端を發しました「100年に一度の不況」はますます、混迷の様相を濃くし企業の倒産、内定取り消し、リストラなど社会全体が未経験の経済、社会環境のなかに突入した感があります。この様な中で目に留まった言葉は、『最も強いものや、最も賢いものが生き残るとは限らない。常に変化に対応できるものが生き残ることができる。』という言葉です。社会福祉法人「風の谷」にとりまして、「常に変化に対応できる」とはどの様なことなのか、「変えてはいけないこと、大切にしなければならないこと」とは何なのかを考えさせられた年頭でございました。

私達法人にとりまして「常に変化に対応できる」とは、どの様なことでしょうか。私は法人が設立10年で築き上げてきた強みを更なる魅力あるものとし、利用者に満足していただくこと、多くの利用者に法人の提供する支援プログラムを選んでいただくことであると思います。その為に大切にすべきことは福祉関係に携わる者の原点である、「今、利用者に必要なことは何なのか？何が出来るのか？を考えて歩む」ことではないでしょうか。この思いを一步進めるべく、風の谷は発達障害者支援センターの新規事業計画を、施設の増築を含めて検討、着手しております。具体的には現在の自閉症支援センターを発展させ、短期入所事業の拡大を主に行動援護事業、相談事業を充実させ利用者の安定した生活の場の拡大、提供に繋げることを目的としております。職員と共に、この10年で培った知識、技能を糧にしながら変化を担える人材になるべく研鑽を積むとともに、魅力あるサービスの提供、利用者満足度の高い施設運営を目指したいと思っております。

最後になりましたが、皆さま方のご健康とご多幸を心からお祈りいたしますとともに、皆さま方のご支援、ご協力のもと「皆で成し遂げた」という年に出来ればと思う次第です。



社会福祉法人風の谷  
理事長 政野光廣

## 「相模原自閉症支援センター」便り

何かと話題の多かった障害者自立支援法も見直され、その中で「相模原自閉症支援センター」に関わってくる見直し事項には行動援護があります。この行動援護は「相模原自閉症支援センター」にとって、大きな位置を占めているサービス類型になります。もう一度行動援護について確認すると、「知的障害又は精神障害により行動上著しい困難を有する障害者等であって常時介護を要するものにつき、当該障害者等が行動する際に生じ得る危険を回避するために必要な援護、外出時における移動中の介護その他の厚生労働省令で定める便宜を供与すること」と定義されていて、「 予防的対応を行なう 制御的対応を行なう 身体介護的対応を行なう」とあります。自閉症の特徴といわれている「相互的な対人関係の障がい」「想像力の障がい」「コミュニケーションの質的な障がい」から考えると、行動援護はまさしく自閉症の人達向けのサービス類型になっています。

しかし、現在の行動援護は外出介護に比べてのデメリットが多いのが実情です。それは、行動援護従事者の基準が設けられているため、支援を行えるヘルパーが限られていたり事業所そのものがあまり存在していなかったりと、外出介護に比べると自由に支援を受けられない側面があるからです。さらに、支給決定には判定基準で対象者となる必要があります。そもそも、支援計画を作成しての利用を想定していて、突発的ニーズへの対応は原則行えないため、本当に当事者の地域生活を支えられているのか？という疑問も聞かれます。事業所としても、1回の支援で算定が認められているのが5時間までと外出介護に比べて短いので、それ以上の利用の際には算定出来ずに事業所の持ち出しになっています。これらのデメリットが事業所に二の足を踏ませる要因になっているようです。しかし、もともと自閉症の人達は「予知、予見」や「行動等の意味付けを自ら見出すこと、理解すること」が難しいのですから、スケジュール等を提示し不安を軽減し意味付けを行う必要が出てきます。しかも地域社会には、相互的な関わりや突発的な変化、更には個々に持つ特有の生理的な嫌悪感等もたくさん存在しています。ですから、自閉症理解に基づいた予防的対応や制御的対応は、今までも当たり前のように行なってきた支援でした。

自閉症圏の人達が抱えている生活のしにくさを理解している支援者がさらに増えて、充実した地域生活にむけての支援が出来る為にも、行動援護がもっと利用しやすいものになってほしいものです。今回の見直しでようやく5時間以上の算定もできるようになるようです。事業所にとっては大きな見直しなのですが、それ以上に、当たり前の支援を自宅内や活動後など、場所や内容に制限されることなく行なうことが出来る「行動援護」が、今後更に、利用される人達の障害程度区分等に関係なく、個別給付で受けられて、一人ひとりの生活を支えられるものになれば良いと切に願います。

昨年は社会情勢等から福祉の人材不足が騒がれる中、幸いなことに新しい職員と出会う機会にも恵まれました。“いちばん困難さを抱えているのは誰なのか”、“誰の為の支援なのか”をもう一度考えながら、職員一同新たな気持ちで支援をスタートさせたいと思います。今年も変わらぬ応援どうぞ宜しくお願いいたします。

(相模原自閉症支援センター西村三郎)



## 余暇活動

余暇活動ってなんだろう？ 思いつくものをいくつかあげてみてください。  
カラオケ、ボーリング、プール、映画、テレビ、ビデオ、読書、ゲーム・・・。

今回の特集にて余暇活動を取り上げようと思い、自分もいくつかあげてみましたが、  
なんだか変です。どれもいわゆる娯楽です  
娯楽なら娯楽という言葉のほうが的確です。  
では余暇活動の特色はなんでしょう？  
学校では放課後の活動を余暇活動と言うようです。  
仕事の反対語とも言われます。  
本業以外の活動ということでしょうか？  
では本業以外の活動をいくつかあげてみてください。  
カラオケ、ボーリング、プール、映画、テレビ、ビデオ、読書、ゲーム・・・、  
他に習い事や健康のための運動などもあるでしょう。  
娯楽よりも範囲が広いようです。

## 暇だなあ

自閉症者にとって余暇の過ごし方が問題になると言われています。  
では余暇とはなんでしょう？  
字義的には、アマリ、ヒマです。アマリもヒマも個人的な感情です。  
要するにある人が暇だなあと思うことです。  
暇だなあというのは抽象的なので抽象的な言語理解が不得意と言われている  
自閉症者にとって違うニュアンスかもしれませんし、個々によっても当然違うはずです。  
とにかく空白の時間です。  
何かを待つわけでも休んでいるわけでもないのです。  
そういう空白の時間は一般に自閉症者は不安になると言われています。  
おそらく空白の時間から意味のある時間にチェンジするのが苦手なのでしょう。  
では余暇の反対語は？  
広く定義するなら意味づけされた時間ではないでしょうか？  
なにも活動に結びつける必要はないのです。  
例えば、体を休めることも意味のある時間です。  
ただ“体を休める活動”は意味づけが難しいのかもしれませんが。  
一般的に意識して体を休めるためには  
    疲れを感じていること  
    次の活動のために体調を整えること  
この2点が必要になります。自閉症者は実際の痛みと言葉としての痛みとを結びつけることが  
苦手と言われているくらいなので、疲れはもっと苦手かもしれません。けれども体を休めるこ  
とは大事なことなので、意味づけできるように丁寧に支援していく必要があると思います。

## 暇そうだなあ

余暇は個人的な感情から生まれるものです。周りの人が決めることではないのです。  
ただ暇そうだなあと思えることがあります。  
フラフラ歩き回っているとき  
反復行動をしているとき  
自己刺激をしているとき  
などです。  
どうして暇そうに見えるのかといえば、どんな時間なのか私たちがわからないからです。  
そんなことして何になるのかと思っているからではないでしょうか？  
そういうときには何か活動をいれるのは良いことでしょうか？  
活動を入れる前に見守ってあげることも必要です。  
暇そうだなあと思った後に何か問題になることがあったとか  
反復行動を止められず、苦しうだと判断できる出来事があったり  
マイナス面があったときはその時間に意味づけが必要になります。  
ただし自閉症者の個性を無視した押し付けは避けたいものです。  
一方、同じことを何度も繰り返して何時間も一人で過ごしているのはどうでしょう？  
たとえ、本人が楽しそうにしているとしても限度があるように思います。

以上のことから  
暇そうだなあと思ったときは次の点を考えてみましょう。

### どうして暇そうと思ったのか

### どう過ごして欲しいのか

自閉症者理解が抜けていて、自分だけの見方になっていることに気づくと思います。

### その上で 自閉症者ならではの過ごし方（自閉症者の数だけあると思いますが） 一般的な過ごし方

について考えてみましょう。  
も大事です。社会との接点になり、活動が増えるからです。  
どこを受け入れ何を一般化へ促すかは明確な基準は残念ながらありません。  
そのため支援者の主観に陥りがちです。  
仕事や勉強は社会という方向性がありますが、  
余暇に対する答えは自由であるべきです。  
自閉症者の個性を指針にして支援していきたいですね。

では次ページで実際の余暇に対する答えの一例を見に行きましょう。

# 余暇に悩む ↳余暇に対する基本的な考え方



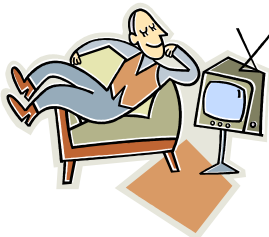


# ゆったりと過ごそう

## ソファ？ベッド？

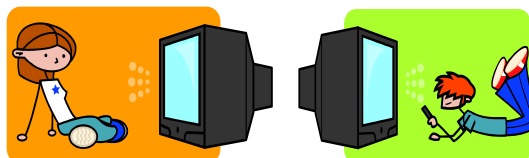
それでは、具体的な事例を見てみましょう。自閉症の男性、Aさんは、とても真面目に仕事に取り組みます。これまでの経験から大抵の下請け作業はでき、長時間になっても、安定したペースでこなすことが出来ます。

しかし、Aさん、絵カードのスケジュールで動いていますが、作業の合間の休憩時間は、タイマーを持ったまま立っています。職員が次の作業を準備するのを急かしたり、時には先にやってしまうこともあります。職員は「タイマーが鳴るまで休憩しててください。」と言いますが、Aさんの行動は変わりませんでした。そこで、仕事をする部屋の入口付近の廊下にソファを設置。休憩カードをそこに貼れるようにしたところ、ソファに座り、通りがかる職員と言葉遊びをしたり、昼食後の時間などには、そこで横になって休憩するようになりました。これは、休憩の意味づけがソファによって、Aさんに伝わったのではないのでしょうか。また、Aさんには、ソファであることも重要だったのだと思います。この前に仕事の部屋で座椅子を設置したことがありましたが、Aさんにとっては、座りにくく更に周りに他の人が行き来しているという状況で落ち着いていられなかったようでした。また、これがベッドだったら、休憩というより昼寝というスケジュールが伝わって、夜眠れなくなってしまうということになったかもしれません。Aさんには、ソファが休憩と呼ばれる行動をとるために適した道具だったと言えるでしょう。このように置いたものの一つで様々な意味に受け取られてしまうので、その人に合わせた形で行うことが大事なのです。



## 2台のテレビ

Bさんの場合、休憩時間はテレビのある部屋で過ごします。いつも決まった時間に好きなテレビ番組を観ているのですが、その部屋はテレビが2台並べて置いてあります。Bさんが観るのは、右側のテレビ。左側のテレビは、他の人が観ます。時間によっては2台同時に別の番組が映っている時があります。それでも2人から不満が出ることはありません。これには、自閉症の人は視野が広くないこと、視覚情報の処理が得意で興味のあることへの集中力が強いことが挙げられますが、それだけでなく、同じテレビを見るという娯楽活動もその楽しみ方が違うということが大きな要因といえます。Bさんは、テレビのそばに座って画面を指でなぞりながら観ます。番組のオープニングとエンディング、CMに出てくる文字を指でなぞりながら読んでいるのです。それなら雑誌や広告で良いじゃないかと思われるかもしれませんが、でも、Bさんは、決まった曜日、決まった時間に放送される番組やCMを楽しみにしています。始まる前に「観る」等、言いながら笑うことがあります。Bさんは、文字を読むためにテレビを観ます。左側のテレビでは時代劇、右側のテレビではバラエティー。それでも、それぞれに観方、楽しみ方が違うのでお互いに邪魔になることはありません。前頁で「自閉症者の個性」と述べましたが、そうした個性が私たちでは考えられない過ごし方を生む場合があります。いずれも自閉症者ならではの過ごし方に着目すると私たちの生活では考えられないようなことが、より楽しめる場合があります。





# いっしょに楽しみたい！

～ ガイドヘルプの現場から ～

やまびこ工房では現在 20 名以上のヘルパーさんが登録して、日々利用者の余暇充実の為に活動しています。やまびこ工房は自閉症の方が殆どで、外出中にも様々な拘り・問題行動をとってしまう時があります。

ある方はガイヘル中に道端に落ちているガムを拾ってしまいます。当初その拾ったガムを口に入れていましたが、これは衛生面から考えて問題行動とみなしました。これについては「拾ったガムは口の中に入れていません」と予定表の中で絵付きで説明し、本人にも約束してもらいました。現在拾ったガムを口に入れることはしていません。ところが、ガムは今でも拾うのです。見ていると1つ、2つ、3つ・・・と段々大きな塊になっていきます。この塊は細長く伸ばされ、本人の好きな数字の5、8を形作り、壁に貼り付けられるのです。それはいつも同じ場所らしくその壁には、3つのガムの数字が並んでいました！ さて、この突飛な行為についてみなさんはどう考えるでしょうか？

自閉症の方たちは特定のものにこだわってしまう時がありますが、それは自閉症の特性の一つです。そういったこだわりは、私たちにとってそれは想定外のものであったりもします。そこで、私たちは次のように考えました。この方にとっては「ガムで自分の好きな数字を作り、貼り付ける行為」が楽しみなのかもしれない？ このガムのお話を私たちの生活に置き換えると、「自分が気になっている、どうしてもやりたい趣味が止められてしまう」ということなのかもしれません。私たちの仕事は、自閉症の人たちが私たちと同じように楽しい人生を送れるようにサポートすることです。そのために社会的にどこを許して、どこを諦めてもらうか？日々葛藤しています。因みにこの数字の芸術品、職員が後で剥がしに行っています。



またある方は「お～い、お茶」の缶を見ると缶に書かれている俳句を読みたくて仕方ありません。外出先でベンチに座っていておいしそうにお茶を飲んでいる人の目の前に立ち、「お～い、お茶」を今にも奪わんがごとくじっと見つめています。

そんな時、利用者の傍で懸命に止めると同時にその方に自閉症の説明をしているのが、ヘルパーです。

「電車内で大声を上げる」(本当は、声を上げずにはられない)

「下車する人を待たずに乗り込んでしまう」(本当は、社会の暗黙のルールが理解できない) などガイヘル中に周囲の注目を浴びることは多いのです。

“目立たぬように社会のルール全てを身につけるまで公共機関、公共の場に連れて行けない”

とするならば、彼らの外出の機会は著しく削られてしまうでしょう。

現場では、ヘルパー達の事前の対応(能力)が大変重要になってくる訳ですが、もしも100%問題なく確実に出来る活動だけを準備するならば、利用者の外出は制限の多いともつまらないものになってしまうと思います。

私たちは、そういったことを踏まえた上で、今日も利用者さん達と“冒険”に出ます。バスやタクシーの運転手に注意されたことも、他の乗客から苦言を呈されたこともありました。でも中には親切な方もいて、手の傷をかきむしってしまう利用者さんに絆創膏をくれた方もいました。本人は見知らぬ人に声をかけられて、真っ青。ヘルパーも冷や汗ものでしたが、それが外出の醍醐味でもあるのです。

ヘルパー数名に単純な質問をしてみました。

「ヘルパーのやりがいは何ですか？」

答えは「利用者が楽しそうにしている姿を見ること」だそうです。

# 後援会のページ

日増しに暖かくなり、春の到来が感じられる時期となりました。やまびこ工房家族会の皆様、賛助会会員の皆様には、お元気でお過ごしのこととお慶び申し上げます。

近年、一般社会の自閉症に対する理解も大分進んだように感じられます。これには、テレビ、書籍等のメディアも自閉症という障害に対する理解を深めるのに寄与しているとは思いますが、親の会、施設職員等の関係者の地道な啓発活動が最大の推進力であります。

国連総会での決議により、昨年からは毎年4月2日が「世界自閉症啓発デー」に制定されました。これは、自閉症への認識を高めるのに大いに寄与すると思っております。この啓発デーに、自閉症に関するシンポジウム等各種行事が実行される予定もであると聞いています。

また、最近、文部科学省から、小・中学校の「情緒障害特別支援学級」の名称を「自閉症・情緒障害特別支援学級」に変更する旨の通達が、都道府県知事、都道府県教育委員会教育長に通達されました。

これらの措置によって、自閉症への理解が一層深まることを期待しています。今後とも、自閉症児・者にとって暮らしやすい社会実現のためご協力、ご支援をお願い申し上げます。

(風の谷後援会会長 鈴木秀美)

## 風の谷 地域交流バザーのおしらせ

日時：5月31日(日) 10:00～ 雨天決行  
場所：やまびこ工房(相模原市田名7236-3)

皆様お誘い合せの上、ぜひご来場ください!!



【更新・個人】平成20年9月13日～平成21年1月15日(敬称略)

(相模原市内)

内田まゆみ、富田勇、菊間政好、野崎廣子、柳場秀雄、中村達哉、松木千枝子

(その他地域)

山本昭子、小山かおり、済田安司、済田順子、稲垣久和、上城功(東京都)、藤野喜友、内田照雄(厚木市)、清水洋子、農澤雄治、内藤美也子(横浜市)、有路富夫(海老名市)、浅羽昭子(横須賀市)、北村恵子(逗子市)、松岡清市(弘前市)、川野敏雄(苫小牧市)、辺見貴江子(仙台市)、上野悟(川崎市)、蘭ヒデコ(座間市)、上城春子、田中正子、村井伸芽、上城和子(福岡県)

【更新・団体】

日本キリスト教会、相模原市やまびこ会

ありがとうございました。

## 風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的としております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

お問い合わせ先

〒229-1124 『風の谷後援会』事務局

相模原市田名7236-3 社会福祉法人 風の谷 内 TEL:042-760-1033 FAX:042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345